

2019年度 事業報告

1. 概観

子どもの権利条約国連採択30年記念事業として、2019年10月『世界中の子どもの権利をまもる30の方法』（合同出版）を発行。11月30日には出版記念イベントを開催。多くの執筆者と子どもに登壇いただき、約60名の参加者があった。出版に関する取材記事が共同通信に配信され、沖縄から青森まで19社の地方紙に掲載された。

また、子どもの脳を傷つけない子育て講座や「子ども時代の逆境体験が及ぼす個人と社会への影響」をテーマとした講座の開催数が飛躍的に伸び、20か所で668名の方に対し、認定講師による講座を提供できた。

カンボジア事業では、現地NGO「カンボジア子どもの権利保護センター（以下、CCPCR、Cambodian Center of the Protection of Children's Rightsの略）」との連携による活動を継続。3つの小学校及び地域のおとなとの連携強化がCCPCRとの協働により実現。その結果、地域行政との連携が強化され、コミュニーン評議会に正式に「子どもクラブ」として活動が承認された。

【カンボジア事業】CCPCRとの連携による成果として、地域のおとなとの連携強化があげられる。主な成果については上記に示した通りだが、加えて子どもたちが「子どもの権利」について知識として知るだけではなく、具体的な行動を通じて子どもの権利を地域で実現させようという動きがでてきている。

【国内事業】2018年度から継続してきた出版本及び講座開催の成果を出せた一方、あらたな助成金獲得により、国内の多様な背景のある子どもの声を聴く子どもアドボカシーの活動を開始した。連携団体とともに模索しながらの活動ではあったが、組織としてどのように子どもの声を受け止め発信していくのかを具体的な活動を通じて分析、振り返る機会となった。

[事業]

カンボジア（継続事業）

- カンボジアのベトナムの国境沿いにあるスバイリエン州のタナオ・コミューン（集合村）で「子どもの権利促進プロジェクト」を実施。子どもたちが、ベトナムなどに出稼ぎや物乞いに出されることなく学校に通い続けられるようにするだけでなく、子どもが親やその他のおとなから暴力に遭わない社会にするために、子どもから子ども・おとなへのピア・エデュケーションによる啓発活動を行った。
- 2017年に結成したピア・エデュケーター、学校の教員、地域住民とともに、地域の子どもの権利状況とどのような活動が必要かを考えた。
- ピア・エデュケーターを中心にパソコンと英語を学びたい子どもたちにパソコンの使い方と英語を教えるクラスを開催。
- 地域住民組織と協力して、コミュニティセンターの図書室・アクティビティルーム（あわせて「チャイルド・フレンドリー・スペース」）を運営管理し、子どもたちの学びとグループ活動をサポートした。

国内（新規事業）

- 『世界中の子どもの権利をまもる30の方法』（合同出版）を発行。
- ソーシャル・ジャスティス基金の助成を受け、「子ども自身によるアドボカシー促進のための子どもの権利普及事業～マイノリティの子どもに焦点をあてて～」を実施。

国内（継続事業）

- 主に「子育て講座」「子ども時代の逆境体験が個人と社会に及ぼす影響」についての講座、講演を開催。活動の一部についてLUSHチャリティバンクの助成を受ける。
- 「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」実行委員として活動を継続。「子どもの権利条約フォーラム」へ参加。
- JANICのワーキンググループ「チャイルドセーフガーディング」に参加。関西での公開セミナー開催を担当する。
- ユースグループ Youth for Rights (YFR) が「子どもの権利条約フォーラム」分科会を企画運営するなど活動を継続。

[組織運営]

- 2017年度の財政状況悪化により一時的に事務局の人員が減ったが、2019年度はフルタイムスタッフ1名、インターン3名、2019年度9月からは会計アルバイト1名を雇用、定期的に事務所にて作業するボランティア1～2名程度の体制で事務局を運営する。
- 新理事1名の加入及びアドバイザー2名の継続的なサポートのもと、事務局長とのミーティングを隨時、実施。

2. 開発途上地域の子どもの支援事業

(1) カンボジア「子どもの権利促進プロジェクト」

<目的>

- ・ 子どもたちが「子どもの権利」や人身売買・児童労働の危険についての知識を身につけ、自分自身や周りの子どもたちを危険や子どもに対する暴力から守れるようになる。
- ・ 子どもたちが積極的に声を上げたり、意思決定の機会に参加したりすることで、子どもの視点が地域社会に取り入れられるようになる。
- ・ 次世代のリーダーが育成され、子どもたちの活動が地域住民のサポートによって継続されていく。
- ・ 子どもたちが継続して活動できるようにピア・エデュケーターの育成の仕組みを整備し、ピア・エデュケーターを支える教員を能力強化し、行政との連携関係強化をはかる。
- ・ CCPCRとタナオコミュニーンの子どもたち、地元住民、教員、行政との協働活動によってピア・エデュケーションや子どもクラブなど子ども主体の活動の基盤を確立し、持続可能性を高める。図書館やチャイルド・アクティビティルームからなるチャイルド・フレンドリー・スペースの運営について子どもの意見を取り入れ、運営能力を高める。

◇主な助成・寄付：NTT労働組合西日本本部、尚絅学院大学、サッポロ関連労働組合協議会ほか。

【概要】

子どもたちが出稼ぎや物乞いに出されることなく学校に通い続けられるよう、①子どもの代表による「ピア・エデュケーション（子どもから子どもへ知識や技術を広める）」、②チャイルド・フレンドリー・スペースの運営を通して、子どもたちや親、地域住民に対して「子どもの権利」特に子どもが暴力から守られる権利と教育を受ける権利の重要性を伝える啓発活動を推進した。さらに③パソコン教室・英語教室の開催を通じ子どもたちと地域のニーズに応えることで地域社会との信頼関係を構築した。

啓発活動

タナオ・コミューンで 2017 年秋から活動してきたピア・エデュケーター（子ども代表）が CCPCR の職員から子どもの権利についてのトレーニングを受け、各家庭や地域で子どもやおとなに学んだ知識を伝えた。

子ども同士が助け合い、互いに学び、地域を良くすることをめざし、タナオ・コミューンの「子どもクラブ」では、ピア・エデュケーターもワークショップに参加し、子どもの権利について考えた。

チャイルド・フレンドリー・スペースの運営と子どもの活動

図書室とアクティビティルーム（あわせて「チャイルド・フレンドリー・スペース」）を地域住民が組織した「チャイルド・フレンドリー・スペース運営管理委員会」とシーライツが共同で運営・管理した。

2019 年度、図書室を利用した子どもの数は 1,304 名。

コンピューター教室開催のため図書室のスペース確保が困難となり、2020 年 2 月に図書室の増設を実施した。

現在、月平均 67 名の子どもが英語とパソコンを学んでいる。

カギとなるおとの能力強化

教員とコミューン評議会のメンバーを対象に CCPCR の職員から子どもの権利について研修を行った。

ネットワーキングとモニタリング

2019 年 9 月、2020 年 2 月にシーライツの理事、インターが現地に赴き、子どもの権利、子どもに対する暴力、マイノリティの子どもに関するワークショップとモニタリング、情報収集を行った。

同時に、現地の小学校教員や農業組合のリーダーとのミーティングも実施し、地域の子どもが直面している問題についてヒアリングを行った。

【成果】

- ピア・エデュケーターの子どもたちがタナオ・コミューン評議会に正式に認められたことにより「子どもクラブ」の組織メンバーとして地域行政の承認を得たかたちで活動をすることができるようになった。村の行政において子どもの参加を通じた児童労働防止などを含む子どもの権利を実現していく制度ができた。
- ピア・エデュケーターの子どもたちが、活動を通じてエンパワーされたことを通じ、知識を深めるだけではなく地域の中でおこる人権侵害をなくすための行動を起こそうとする態度変容がみられた。特に、シーライツが目指している「子どもに対する暴力のない社会」をつくりていくうえで、子どもたち自らが暴力をふるっている男性に対して行動すべきとの意識が高まったことは非常に大きな成果といえる。
- コンピューター教室と英語教室の継続により、子どもの保護者を中心とする地域住民とシーライツとの信頼関係が強化された。保護者だけではなく、地域の教員、コミューン評議会、農業組合との関係が一層強化され、地域のおとなに対する啓発活動が促進されることにより、親が子どもを児童労働させず、学校に通学させる事例が増えた。

3. 開発途上地域の子どもの権利状況に関する調査・研究・発信事業及び開発教育事業

(1) 報告会・ワークショップ

①講師派遣

日付	名称	講師・報告者	主催
2019/8/3	d-lab2019 自主ラウンドテーブル「子ども自身によるアドボカシー促進～マイノリティの子どもに焦点をあてて」	甲斐田代表理事	開発教育協会(DEAR)
2019/8/23	「子どもの権利と暴力」勉強会	甲斐田代表理事 寺中理事 園田認定講師	宮本聰氏主宰「子どもの権利勉強会」
2019/9/3	シーライツ活動紹介	奥山事務局長	東京高輪ロータリークラブ
2019/12/10	痴漢被害に悩んでない？身近な性暴力問題勉強会	甲斐田代表理事	アジア女性資料センターユースグループ

②訪問受入れ

日付	団体・学校名	対応者	内容
10/23	アレセイア湘南中学高等学校 生徒 合計 6名	奥山桂子（事務局長）	活動紹介

(2) 広報

ニュースレターの発行、HPでのブログ発信及びFacebook、Twitterでの情報発信を隨時行う。

2020年1月から3月、代表理事の甲斐田へのインタビュー記事が各地の新聞に掲載される。

発行日	掲載誌・掲載本	内容
2020年1月 から3月	長崎新聞、神奈川新聞、など19社	「子どもの権利」広めよう 普及図る書籍リスト発行
2019年4月	シャプラニール機関誌「南の風」	シーライツによる子どもの権利実現
2020年2月	アーユス会報128号	シーライツの活動

(3) 研究活動・出版・制作

シーライツのこれまでの実践や実践から得られた知見を以下の書物にまとめた。

- ① 子どもの権利条約採択30年を記念し、『世界中の子どもの権利をまもる30の方法』(合同出版)のため、シーライツ関係者原稿を執筆し、それぞれの分野における第一人者に執筆を依頼した原稿を代表理事が編集し、顧問の荒牧重人氏が監修した。子どもの権利が持続可能な目標(SDGs)にどのように関係しているかについても示した。
- ② 開発教育協会(DEAR)の機関誌『開発教育66号』に甲斐田代表理事が「国連子どもの権利条約30周年—違いが尊重され安心して共に生きられる社会に向けて」を執筆。
- ③ 文京学院大学総合研究所紀要20号に甲斐田代表理事と南雲理事が論文「子どもの権利実現と子どもに対する暴力撤廃に向けた取組み～日本と開発途上国の協働の意義」を執筆。
- ④ 「子ども基本法研究会」(座長：奥山真紀子氏)に甲斐田代表理事が委員として参加(7月、10月、11月、12月)
- ⑤ 子どもアドボカシーや子どもの声を聴くシステムを学ぶために以下の講演会に甲斐田代表理事が参加。7月15日：子どもの声からはじめようプロジェクト「イギリスの子どもアドボカシーに学ぶ」、12月17日スコットランド子どもコミッショナーのブルース・アダムソン氏報告会。

- ⑥ 4月19日：難民の子どもの声を聴くために小川理事、甲斐田代表理事が裁判傍聴
- ⑦ 11月14日国連大学主催、マンフレッド・ノヴァック氏（国連独立専門家）による「自由を奪われた子どもに関する国連グローバル調査について」（甲斐田が参加）

(4) イベント参加（出展）

日付	名称・内容	会場
2019/10/16	NGO インターン説明会（シャープラニールインター ン企画）	早稲田奉仕園（東京）
2019/11/17	子どもの権利条約フォーラム分科会	文京学院大学（東京）
2020/2/14	学生向け NGO イベント（JANIC 主催）	早稲田奉仕園（東京）

4. 国連子どもの権利条約の普及事業、及び子どもの権利促進事業

国連子どもの権利条約の普及・促進事業

(1) 『世界中の子どもの権利をまもる30の方法』出版記念イベント

登壇者：監修の荒牧重人氏、執筆者の中島早苗氏、栗林知絵子氏、野村武司氏、辺見妙子氏、高橋恵理子氏、奈良崎文乃氏、FTCJ の坂口くり果さん、福原立春香さん

日付	名称	会場	参加人数
2019/11/30	今改めて考える子どもの声を聴くことの大切さ～実 践の現場から～	文京学院大学 (東京)	約60名

(2) 脳科学に基づく子育て講座/ACEs 講座の実施 <園田京子認定講師により実施>

※ACEs=Adverse Childhood Experiences 子ども時代の逆境体験

日付	名称	開催場所	参加 者数	主催
2019/4/6	脳科学に基づく子育て連続1	人権ライブラリー	3	シーライツ
2019/4/21	子どものしつけ声掛け	誓願寺	10	誓願時なかよしク ラブ
2019/4/27	脳科学に基づく子育て連続2	人権ライブラリー	4	シーライツ
2019/5/16	ACEs 研究	宇都宮大学	45	宇都宮大学
2019/5/17	ACEs 研究	人権ライブラリー	15	藤解塾
2019/6/6	脳科学に基づく子育て連続1	人権ライブラリー	0	シーライツ
2019/6/22	脳科学に基づく子育て連続2	人権ライブラリー	7	シーライツ
2019/6/25	子ども時代の逆境体験の中長期 的な影響	千葉大学	100	千葉大学
2019/8/10	子育て講座「怒りの対処法」	人権ライブラリー	3	シーライツ
2019/8/31	子育て講座「怒りの対処法」	人権ライブラリー	2	シーライツ

2019/10/30	フェリス女学院大学「企業と倫理」 ACEs 研究の発表	フェリス女学院大学緑園都市校（神奈川）	150	フェリス女学院大学
2019/11/16	脳科学と子どもの権利条約に基づいた子育て講座	文京学院大学（東京）	32	子どもの権利条約フォーラム
2019/12/10	子ども時代の逆境体験が個人と社会に及ぼす影響～NGO/NPOが担える役割を考える	文京学院大学（東京）	22	文京学院大学 NPO・NGO 論
2019/12/14	子どもはどうしてイヤイヤするの～やさしい発達心理学と脳科学で読み解きます	横須賀産業交流プラザ（神奈川）	71	横須賀子育ち応援ネットワーク
2019/12/17	子ども時代の逆境体験が人の成長に与える影響～企業の役割を考える～	横浜市立大学（神奈川）	56	横浜市立大学
2020/1/18	子どもと大人のための怒りの抑え方	富士市松風学童クラブ	13	富士市松風学童クラブ
2020/1/22	ACEs と人権	早稲田大学国際人権論	50	早稲田大学
2020/1/22	練馬区内幼稚園 園長・副園長勉強会 「人権と子育て」	練馬区公民館（東京）	27	練馬区立園 園長・副園長勉強会
2020/1/25	みま～もいたばし地域づくりセミナー「子どもの権利」	下赤塚駅前集会所	8	みまーもいたばし

(3) 子ども・若者の声を聴くプロジェクト

日付	名称	会場	参加人数
2019/4/13	ソーシャルジャスティス基金 活動下見 すたんどうばいみー（小川、甲斐田、柳葉）	いちょう団地	数名
2019/6/23	ソーシャルジャスティス基金ワークショップ にじーず（甲斐田、柳葉）	にじーず活動地・池袋	数名
2019/6/30	ソーシャルジャスティス基金ワークショップ すたんどうばいみー（小川、甲斐田、柳葉）	すたんどうばいみー活動地 大和市立渋谷中学校	10名程度
2019/7/14	ソーシャルジャスティス基金ワークショップ すたんどうばいみー（小川、甲斐田、柳葉）	すたんどうばいみー活動地 いちょう団地	10名程度
2019/7/21	ソーシャルジャスティス基金ワークショップ にじーず（甲斐田、柳葉）	にじーず活動地・埼玉	数名
2019/8/25	ソーシャルジャスティス基金ワークショップ すたんどうばいみー（小川、奥山、甲斐田、柳葉）	すたんどうばいみー活動地 渋谷中学校	10名程度
2019/9/28	LGBTQ が安心して過ごせる学校について考えよう～子ども・若者向け意見交換ワークショ	早稲田奉仕園	11名

	ップ（奥山、甲斐田）		
2019/12/14	ソーシャル・ジャスティス基金アドボカシーカフェ第61回「知ってほしい 一人ひとりの子どもの声～マイノリティの子どもたちのリアル～」（奥山、甲斐田、南雲、寺中）	文京学院大学	ソーシャル・ジャスティス基金

(4) 講師派遣

日付	名称	講師・報告者	主催
2019/6/20	子どもの権利とビジネス～企業と NGO の協働で子どもの権利を守る	甲斐田代表理事	経済人コー円卓会議 日本委員会
2019/7/18	子どもの権利とビジネス	奥山事務局長	経済人コー円卓会議 日本委員会
2019/11/1	子どもの権利条約講座	甲斐田代表理事	子どもの権利条約ネットワーク
2019/11/3	ワークショップ「子どもの声を聴いていますか」	甲斐田代表理事	東洋大学、さきちゃんち運営委員会
2020/3/25	院内集会「体罰のない社会の実現を目指して—改正児童虐待防止法の施行を目前に控えて—」	甲斐田代表理事	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

(5) チャイルド・ライツ・プロジェクト

大学生を中心としたボランティアメンバーからなるユースチーム「Youth for Rights」が活動を継続。「子どもの権利条約フォーラム in 東京」、実行委員会、分科会「SDGs と子どもの権利」の企画運営、交流会の企画運営を実施した（北村、皿谷）。

5. 国際・国内団体とのネットワーク

(1) 国際・国内団体とのネットワーク

参加ネットワーク団体

- ・広げよう！子どもの権利条約キャンペーン実行委員会
- ・（特活）国際協力 NGO センター（JANIC）の正会員を継続
- ・児童労働ネットワークの団体正会員
- ・カンボジア市民フォーラムの会員（甲斐田代表理事、岡島理事が世話人として）
- ・東日本大震災子ども支援ネットワーク（運営委員として）
- ・NGO 非戦ネット
- ・SDGs 市民社会ネットワーク情報会員
- ・子どもに対する暴力撤廃日本フォーラム（GPeVAC）

・ネットワーキング活動

日付	内容
5/9, 5/30, 6/17, 6/29, 10/15, 10/30, 12/2, 2020/3/10	子どもに対する暴力撤廃日本フォーラム（GPeVAC）ミーティング、GPeVAC 関係者と専門家との意見交換会、スウェーデン子どもオンブズマンとの会合、各省庁担当職員とのマルチステークホルダーア会合、山内康一国会議員と面談（甲斐田）
4/18 5/21 6/6 10/10 11/7 2/3	JANICによる「チャイルドセーフガーディング」勉強会/ワーキンググループ（甲斐田、岡島、小川、奥山）

2/14	ミーティング、研修への参加。及び下記関西公開セミナーの主催を担当。
2020/1/28	令和元年度 NGO 研究会 関西公開セミナー 子どもと若者のセーフガーディング～私たちが子どもの人権を侵害するこ とのないように（会場：大阪大谷大学ハルカスキャンパス）。29名参加。
9/11, 2020/1/30	カンボジア市民フォーラム世話人会（岡島、甲斐田） カンボジア政治関係者と市民社会団体懇談会（甲斐田）
5/9	JANIC 役員選考委員会（甲斐田）
4/9 7/26 1/16	広げよう！子どもの権利条約キャンペーン実行委員会（甲斐田、奥山）
4/22	広げよう！子どもの権利条約キャンペーン ローンチイベントに共同代表 の甲斐田が登壇。
2020/1/26	「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウム「子ども参加」分科会に 参加（甲斐田）
2020/1/31	グリーフサポートせたがや主催「子どものグリーフに寄りそう～ダギーセン ターの取り組みに学ぶ」（広報協力）（甲斐田）

6. その他、この団体の目的を達成するために必要な事業

(1) 6回理事会を開催。

4/27	第69回理事会 開催場所：東京事務所 議題：2019年度事業案ほか
5/12	第70回理事会 開催場所：東京事務所 議題：2019年度予算案ほか
5/25	第71回理事会 開催場所：早稲田奉仕園 議題：代表理事・副代表理事の互選ほか
11/4	第72回理事会 開催場所：東京事務所 議題：2019年度上半期決算の報告ほか
12/14	第73回理事会 開催場所：文京学院大学 議題：2020年度の事業計画、予算案
3/20	第74回理事会 開催場所：東京事務所/オンライン 議題：賃金規定の改定ほか

(2) 各事務所の組織運営

東京事務所	事務局長、会計総務のスタッフ、ボランティアスタッフが事務作業（会員管 理、会計、問合せ対応、助成金申請、総務労務、広報、シーライツトレード 事業等）を分担。
カンボジア事務所	協働団体CCPCRのスタッフ数名にて業務を遂行。

(3) 資金調達

2019年度の赤字決算の要因として以下三点のことが考えられる。2020年度はこの反省を踏まえた事業運営を行っていく。

第一に、出版事業に想定以上の時間がかかってしまった。

第二に出版記念イベントが台風で延期されスケジュールを組み直し、その準備に時間と労力が想定以上にかかってしまったこと。それにより、目標としていた助成金申請が達成できず、また、当初計画していた支援者との様々なコミュニケーションの機会をつくって支援を呼びかけるこ

とができなかつたことである。

① 助成金

[採択]

団体名・助成金名	金額	2019年度決算分	助成内容
LUSH チャリティバンク	689,500円	287,292円	国内事業
ソーシャルジャスティス基金	100万円	75万円	国内事業
Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs 海外助成	100万円	101,000円	カンボジア・プロジェクト

② 団体大口寄付（10万円以上）

寄付者	金額	指定寄付内容
NTT労働組合西日本本部	520,472円	カンボジア事業(スバイリエン州/出稼ぎによる子どもの人身取引・児童労働防止事業)
サッポロ関連労働組合協議会	113,889円	カンボジア事業(スバイリエン州/出稼ぎによる子どもの人身取引・児童労働防止事業))
尚絅学院大学	205,725円	カンボジア事業(スバイリエン州/出稼ぎによる子どもの人身取引・児童労働防止事業)

③ 会員

2019度会員総数 個人会員 79+団体会員 1

内訳

正会員合計 (前年比)	一般正会員	子ども正会員	
41 (5名増)	41	0	
賛助会員合計 (前年比)	一般賛助会員	子ども賛助会員	団体賛助会員* (口数)
39 (増減なし)	38	0	1 (1口)

・団体賛助（法人）会員は、WE21 ジャパンちがさき

④ マンスリーサポーター

2008年に開始した毎月一口1,000円からの寄付金制度。3月末時点で登録者は93名。(2018年度に比べ1名減)

⑤ ファンドレイジング

アドバイザー及びプロボノボランティアより不定期にて組織運営、収支状況の共有、アドバイスをもらう。昨年度より収益事業化を目指している講師派遣について、アドバイザー及びプロボノボランティアの協力のもと数多く実施することができた。

(4) 理事・職員研修

- ① 「セクシュアルハラスメント等を含む人権侵害防止および対策に関する規定」に基づいて理事・事務所職員に対するセクシュアルハラスメント防止の研修（講師：濱田すみれ氏）を実施。
- ② 2019/6/16 理事、スタッフ、ボランティア、アドバイザーを対象としたワークショップを実施。

中期計画以降の組織の活動の方向性を定める第一歩と位置付け、組織診断等を実施。

- ③ 台東区社会福祉協議会による財務・労務の無料相談を事務局長が随時活用し組織の状況に応じたアドバイスを専門家より受ける。

以上